

日本免震構造協会主催 第20回免震フォーラム（対面）

「地震列島日本を考える」

日時：2024年11月22日（金）13:00～17:40（終了後意見交換会）※受付開始12:30～

会場：日本大学 [理工学部駿河台キャンパス](#) 1号館 6階 CST ホール

定員：180名（申込/入金締切11月15日（金）定員になり次第締め切らせていただきます）

参加費：会員：5,000円 / 非会員：7,000円 / 学生：2,000円（税込み）

（意見交換会参加費：4,000円（税込み）18:00～ 日大タワースコラ 1階カフェテリアにて）

申込方法：当協会ホームページの [「講習会等のご案内」](#) ページにてお申込み下さい。

追って、受付確認メールにて「受付番号」をご連絡いたします。当日は、そのメールを印刷して受付にてご提示ください（スマートフォンのご提示でも結構です）。

主催：一般社団法人日本免震構造協会（JSSI）普及委員会

後援：一般社団法人日本建築構造技術者協会（JSCA）※JSCA 建築構造士評価点対象

趣 旨：

地震調査研究推進本部が、首都圏（南関東）で発生するマグニチュード7程度の地震の30年以内の発生確率が70%程度と予測して久しくなります。一方、今年に入り、1月1日には能登半島の大地震（M7.6 最大震度7）や4月17日の豊後水道の地震（M6.6 最大震度6弱）が発生し、さらに8月8日に発生した日向灘の地震（M7.1 最大震度6弱）で気象庁が「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を初めて発表するなど、日本各地で大きな地震が発生しており、ますます地震への備えを進める必要性が増したと言えるのではないのでしょうか。

日本列島の生い立ちや、世界で唯一の地形「フォッサマグナ」など日本固有の地殻構造を知ること、今後発生する巨大地震を考える上で極めて大切なことと考えます。その上で地震発生メカニズムや近い将来における巨大地震の発生可能性について考察したいと思います。本フォーラムでは、地球科学の専門家および地震工学の専門家をお招きし、理学的・工学的な見地から「地震列島」について基調講演をいただきます。また、建築構造物の巨大地震への対応策について3名の講師に事例紹介をお願いしています。本フォーラムが、今後の免震制振技術の開発の礎となることを期待しています。

プログラム：

13:00 会長挨拶：中澤 昭伸 日本免震構造協会 会長

13:05 趣旨説明：前林 和彦 日本免震構造協会 普及委員会委員長

13:10 基調講演：日本にはなぜ災害が多いのか

藤岡 換太郎 静岡大学防災総合センター 客員教授

14:15 基調講演：首都圏に影響を与える大地震

～最近の地震、首都直下地震、相模トラフ沿いの巨大地震～

平田 直 東京大学 名誉教授

15:20 ----- 休憩（10分） -----

15:30 事例紹介：BILMUSによる超高層の新たな応答制御 ～BLUE FRONT SHIBAURA S棟～

青木 貴 清水建設

16:00 事例紹介：L2から大振幅地震動まで 多段すべり支承「TSB」

～半田市立半田病院新病院（知多半島総合医療センター）～

米本 孝志 織本構造設計

16:30 事例紹介：高さ165mのコアウォール免震構造 ～TODA BUILDING～

川又 哲也 戸田建設

17:00 ----- 休憩（10分） -----

17:10 質疑応答

17:40 閉会

18:00 意見交換会 日本大学タワースコラ 1階カフェテリア

20:00 終了

【基調講演講師の御紹介】

静岡大学防災総合センター ^{ふじおか} 藤岡 ^{かんたろう} 換太郎 客員教授



講演内容：「日本にはなぜ災害が多いのか」

日本列島にはなぜこんなに災害が多いのか？それは長い列島の形成過程でそのようになってきたと思われる。現在のような日本列島の骨格と配置はおよそ 1500 万年前に出来上がりました。そして現在と同じ日本列島そのものは第四紀（256 万年以降）に成立しました。まずそのような変遷をたどります。天変地異の内地震に関して特に日本列島に起こる地震などの天変地異の地球科学的な背景についてお話しします。

専門：地球科学

経歴：1946 年京都市生まれ。東京大学理学系大学院修士課程修了。理学博士。東京大学海洋研究所助手、海洋科学技術センター深海研究部研究主幹、グローバル・オーシャン・ディベロップメント観測研究部部長、海洋研究開発機構特任上席研究員を歴任。現在は朝日カルチャーセンター、中日文化センターなどで非常勤講師。潜水調査船「しんかい 6500」に 51 回乗船し、太平洋、大西洋、インド洋の三大洋人類初潜航を達成。海洋地形名小委員会における長年の功績から 2012 年に海上保安庁長官表彰。著書に『山はどうしてできるのか』『海はどうしてできたのか』『川はどうしてできるのか』『三つの石で地球がわかる』『天変地異の地球学』（いずれも講談社ブルーバックス）など。

東京大学 ^{ひらた} 平田 ^{なおし} 直 名誉教授



講演内容：「首都圏に影響を与える大地震」

1. 最近の地震と震災 ① 2022 年（令和 6 年）能登半島地震（M7.6） ② 8 月 8 日日向灘の地震（M7.1）：南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）
2. 首都圏の自然環境と社会環境 ① 複雑なプレート構造と活発な地震活動、関東平野 ② 巨大な曝露量と社会資源の集中域
3. 相模トラフ沿いの地震活動と地震想定 ① M7 クラスの地震と被害 ② M8 クラスの地震と被害

専門：地震学、地震防災

経歴：1954 年東京生まれ。東京大学理学部卒業。東京大学大学院理学系研究科修士課程修了。理学博士（東京大学大学院）。東京大学地震研究所教授、同所長、国立研究開発法人防災科学技術研究所参与・首都圏レジリエンス研究センター長を経て、現在、東京大学名誉教授。首都直下地震や南海トラフ地震などの巨大地震の解明とともに、被災した社会機能の回復についての研究を行う一方で、防災教育や理科教育にも取り組む。政府の地震調査研究推進本部・地震調査委員会委員長、気象庁・南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会会長他政府の委員等を務める。防災功労者内閣総理大臣表彰受賞。著書に『首都直下地震』（岩波書店）『地震を知って震災に備える』（亜紀書房）他がある。

お申込み・お支払い締切：2024 年 11 月 15 日（金）

下記のお申込フォームよりお申し込みください。

<https://jssi.or.jp/eventform/event241122/>

お申込後、受付確認メールが届きます。（迷惑メールに振り分けられる場合がございます。ご確認ください。）

お支払いは、受付完了後の画面の「決済リンク」からお願いします。

「決済リンク」は受付確認メールにも記載されております。

クレジットカード又はコンビニでのお支払いになります。

意見交換会ご参加希望の方はお早めにお申し込みください。会場の関係で、人数に限りがあります。

※上記期限までにお支払いがない場合は、申込キャンセルとなります。

※お支払い後の返金は一切いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

※領収書は資料送付（11/20 送付予定）の際のメールに、添付にてお送りいたします。

お問い合わせ先

一般社団法人日本免震構造協会事務局

メール：jssi03@jssi.or.jp 電話：03-5775-5432（10:00～17:00）